

# 令和7年度 学 校 評 価 報 告

草加市立両新田中学校

(令和8年1月29日作成)

<b>1 学校教育目標</b>	
<p>(1) 学校教育目標 「自ら学び 心豊かに たくましく」</p> <p>(2) 両新田中学校区目指す子ども像 「進んで学ぶ子 思いやりのある子 たくましい子」</p> <p>(3) 目指す学校像「信頼」 ①生徒一人ひとりを大切にし、認め励ますあたたかな学校 ②意欲的に学ぶことができ、生徒の可能性を広げることができる学校 ③地域に感謝し、貢献する誠実な学校</p> <p>(4) 目指す生徒像「自律・自立」 ①自ら学ぶ意欲を持ち、失敗してもくじけずに挑戦する生徒 ②自分の力を信じ、正しく判断し、行動できる生徒 ③仲間と協働することができ、思いやりのある生徒</p> <p>(5) 目指す教師像「チーム両中 情熱・結束」 ①わかる授業を展開して生徒を伸ばし、自らも向上心のある教師 ②厳しさと優しさのある指導ができ、生徒を夢中にさせることができる教師 ③地方公務員としての使命感を自覚し、生徒、保護者、地域に信頼される教師</p>	
<b>2 重点目標・努力目標</b>	<b>3 前年度の成果と課題</b>
<p>①学力向上</p> <p>②個に応じた適切な対応</p> <p>③自己肯定感・自己有用感の向上、 他者理解の推進</p> <p>④幼保小中を一貫した教育の推進</p> <p>⑤地域とともにある学校づくりの推進</p>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は学校教育目標を理解し、生徒や保護者、地域とともに、多くの場面で教育活動を進めることができた。</li> <li>・学校HPや配信メール、学校行事（体育祭や合唱祭等）、授業参観、保護者会等を通して、学校の様子を伝えることができた。</li> <li>・生徒一人ひとりに寄り添い、それぞれの生徒にあった指導、支援を学校全体で組織的に行うことができた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の基礎、基本の学力の定着を図るために、学力向上の取り組みを充実や教職員の授業力を向上させる。</li> <li>・不登校生徒の対応について教職員だけではなく、SCやSSW、外部の機関との連携をより充実させ、生徒指導や不登校の問題に組織的に支援する。</li> </ul>

<b>4 評価表</b> ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営目標、方針</li> <li>・校務分掌組織</li> <li>・適所への適材配置</li> <li>・職員会議等の運営</li> <li>・予算の執行・決算、監査等</li> </ul>	A	<p>○学校の様子を、授業参観、学校めぐり保護者会、学校だより、学年だよりや配信メール等を利用して保護者や地域に伝えることができた。</p> <p>○定期的な職員会議や朝の打合せで学校全体の共通理解が図ることができている。</p> <p>●校務分掌では一部の職員に偏りがあり、担当頼みの場面があった。担当が不在でも、各分掌が円滑に進めることができるようにする。</p>

I 学校運営に関するもの	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究組織、計画、実施</li> <li>校内研修の推進</li> <li>授業改善への取組</li> <li>校外研修会への参加</li> <li>人材育成</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上にむけ、週1回の学力向上部会を設け、本校の学力向上についての取り組みを協議・確認した。学校全体で学力向上についての意識が高まった。</li> <li>職員の授業参観の機会を設け、教職員の授業力の向上につなげた。</li> <li>●学力向上についての取り組みについて、今後も継続して取り組む必要がある。</li> </ul>
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健計画、安全計画</li> <li>環境衛生の管理</li> <li>健康観察、安全点検</li> <li>緊急事態発生時の対応</li> <li>危機管理マニュアルの作成・活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月、安全点検を行い学校の危険箇所や把握でき、全体に周知されている。</li> <li>危機管理マニュアルについて定期的に見直しがあり、緊急事態発生時の態勢をすぐに確認ができる。</li> <li>●登下校の仕方について、地域から不安の声が届くことが度々あった。通学路の安全や登下校の仕方について、継続して指導をする。</li> </ul>
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報の管理、保護</li> <li>施設設備の管理と有効利用</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報の管理やルールが確立され、学校全体で適正に保護されている。</li> <li>●破損の連絡を受け、可能な限り対応をしている。それでも、経年劣化により破損した箇所に設備において、修理に時間を要してしまうものがある。教育委員会にも連絡をして、早めに対応できるようにする。</li> </ul>
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校情報の発信</li> <li>学校公開の実施</li> <li>学校運営協議会の推進</li> <li>地域、校種間連携</li> <li>PTA活動の活性化</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に学校だよりや学年だよりが配布され、学校での様子や出来事が保護者や地域に共有されている。</li> <li>学校の様子や学校行事、授業参観、学校めぐりや保護者会を通して公開ができた。</li> <li>学校運営協議会を定期的に開催して、学校運営協議会の意見を学校運営に反映させている。</li> <li>●地域から、登下校や地域の施設利用について心配の声が上がっている。地域に愛され信頼されるように指導をしていく。</li> </ul>
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>目指す子ども像の共有</li> <li>15年間を通じたカリキュラムの編成</li> <li>一貫教育推進のための組織づくり</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中でのあいさつ運動、合唱披露、6年生1日体験、町探検や小中合同研修会の実施等、定期的に交流をする機会を設けることができている。</li> <li>●幼保小中に連携の見直しや目指す子ども像について、見直しを図り、次年度以降はより充実させたものにする。</li> </ul>

(様式2・中学校用②)

草加市立両新田中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>15年間を通じたカリキュラムの編成、実施</li> <li>教育計画の作成</li> <li>教育活動の評価</li> <li>目標、方針の周知</li> <li>授業時数の配当、確保</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校の課題である、学力向上について、どの先生も学力向上を意識して、工夫をしながら授業を展開している。</li> <li>○学校行事を生徒中心に取り組み、多くの生徒が達成感や充実感を得られた。</li> <li>○授業時数について、日頃から確認を行い確保ができている。</li> <li>●行事が集中してしまうことがあるため、各行事を予め、計画立てて取り組んでいく。</li> </ul>

教育活動に関するもの	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の立案</li> <li>・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善</li> <li>・評価、評定の工夫</li> <li>・外部人材の活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各諸調査の結果を分析し、各授業の改善に生かした。結果分析を多くの職員で行うことで、結果をより細かく知ることができた。</li> <li>○授業研究や参観の機会を各学期に設け、授業改善の機会を設けた。指導者の方を招き、授業改善についてご指導をいただいた。</li> <li>●指導と評価の一体化、授業の改善がつながるようにする。</li> <li>●基礎・基本の定着に課題がある。朝学習や定期テスト前の学習会の実施やAIドリルの活用等、継続して取り組んでいく。</li> <li>●授業規律の徹底を継続して取り組む。</li> </ul>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画の作成</li> <li>・各教科との関連</li> <li>・道徳的実践力の育成</li> <li>・家庭、地域社会との連携</li> <li>・いのちの教育の推進</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳推進教諭や各学年の道徳担当を中心に日常的な題材、生徒の生活に根ざした教材が提示され実態に即した授業が行われている。</li> <li>●家庭・地域社会との連携を道徳教育の視点から考えさえる取り組みを今後、検討して取り組んでいく。</li> </ul>
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の立案</li> <li>・学級活動、学級経営</li> <li>・学校行事</li> <li>・生徒会活動</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒会や各委員会の生徒が中心となり、様々な学校行事を実施し生徒が達成感や充実感を味わうことができた。生徒が主体的に活動できる機会を多く設定し、リーダーの育成、自己肯定感や自己有用感の向上、自治意識の醸成を図ることを目指す。</li> <li>●普段の生活をよりよくするための自治能力を高める指導や学級経営を行う。</li> <li>●学級会を定期的に行い、生徒が自分の意見を言える、認め合う機会を作る。また学級全体で合意形成ができる場面を増やす。</li> </ul>
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の立案</li> <li>・指導内容の充実</li> <li>・指導方法の工夫と改善</li> <li>・評価の工夫</li> <li>・地域の人材・物的資源の活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度は外部の方を招いての学習や職業体験学習等、様々なお話しや体験を通して、生徒たちは自分の進路や生き方について深く学ぶことができた。</li> <li>●生徒自身で課題を見つけ、仲間と共に課題を解決することができる指導内容や学校の実態に応じたテーマを設定し、より探究的な活動を行っていくために、年間指導計画を見直し、作成する。</li> </ul>
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な生徒指導</li> <li>・問題行動への対処</li> <li>・教育相談、生徒理解</li> <li>・いじめ防止対策</li> <li>・保護者、地域、諸機関との連携</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒指導担当を中心として、学年だけ、一人だけではなく学校全体で生徒指導の体制ができている。</li> <li>○教育相談や不登校対応では、教育相談担当や部会を中心にして一人ひとりの様子を十分に把握して、相談員、SC、SSWと連携を図りながら組織的に対応ができている。</li> <li>●地域から校外で様子について心配の声が届いている。保護者と連携をこまめにとり、地域に愛される生徒を育てていく。</li> <li>●今後も生徒の小さな変化を見逃さず、学校全体で組織的な生徒指導・教育相談を継続して行っていく。</li> </ul>

<p>⑦キャリア教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的なキャリア教育</li> <li>・指導方法の工夫と改善</li> <li>・啓発的経験の充実</li> <li>・進路情報の収集・活用</li> <li>・職場体験活動</li> </ul>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の方や多くの事業所のご協力により、1年生では職業体験学習が行えた。学習を通して、生徒は働くことだけでなく多くのことを学ぶことができた。</li> <li>○1年生は職業、2年生は上級学校、3年生は進路選択と、3年間を見通した系統立てたキャリア教育を学校全体で行うことができています。</li> <li>●キャリア教育の学習を通して、生徒の学習や生活のさらなる向上につながるよう指導を工夫していく。</li> <li>●次年度は公立高校の入試について変更がある。教職員がその方法について、理解を深めていく必要がある。</li> </ul>
<p>⑧特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画、支援計画</li> <li>・指導方法の工夫と改善</li> <li>・通常学級との交流</li> <li>・諸機関との連携</li> <li>・校内支援体制の整備</li> </ul>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別の指導計画、支援計画をもとに連携を図っている。各行事では交流級との関わりもあり、絆が深まる場面もあった。</li> <li>○諸機関と連携しながら、支援を必要とする生徒の校内支援体制の整備ができています。</li> <li>●全職員が特別支援教育について理解をより深め、一人ひとりを大切にするあたたかな指導を継続して行う。</li> </ul>
<p>⑨学校図書館教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画、支援計画の作成</li> <li>・図書館補助員の活用</li> <li>・諸機関との連携</li> <li>・図書館の整備</li> <li>・図書館利用の工夫</li> </ul>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○週2回、朝読書を設定して読書を全校で読書に取り組んでいる。</li> <li>●本の貸出数が少なく、一部の生徒しか図書室を利用していない。読書が苦手な生徒がいるため、読書の魅力やよさを伝えていく。</li> </ul>
<p>⑩情報教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育計画の作成</li> <li>・校内研修の充実</li> <li>・ICT機器の積極的な活用</li> <li>・情報モラル教育の推進</li> </ul>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○AIドリルを活用して、各学年週1回は朝学習を実施している。多くの生徒が意欲的に取り組んでいる。</li> <li>○多くの授業でタブレットPCを活用して生徒の考えをリアルタイムに表すことができています。</li> <li>●ネット上でのトラブルを防ぐために。情報モラルについて継続して指導を行う。</li> <li>●目的外の使用が見受けられる。タブレットPCの使い方を日頃から指導をする。</li> </ul>
<p>⑪人権教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画の策定</li> <li>・各教科との関連</li> <li>・人権感覚の育成</li> <li>・校内研修の充実</li> </ul>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権をテーマにして、校内研修を行い、人権の課題について職員全体で考え意識を高めた。</li> <li>○人権について、道徳や総合的学習の時間で考え、学校生活で一人ひとりを尊重することを指導している。</li> <li>●今後も人権感覚を学校全体で育成する。SNSの使い方については、学校全体で考える機会を設け、相手を考え、正しい使い方ができるように指導をする。</li> </ul>

## 草加市立両新田中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週の学力向上部会の実施</li> <li>授業力向上の取り組み</li> <li>学習の意欲を高める取り組み</li> <li>基礎・基本の定着</li> </ul>	B	<p>○毎週、管理職と学習担当を中心に学力向上部会を開き、本校の学力向上について分析や取り組みについて協議をして学校全体に発信した。</p> <p>○各学期に授業研究を行い、両新田中学校の授業の流れの確立や、授業規律、話し合い活動等、学校全体で協議をした。多くの指導者にご指導いただき授業力の向上につながった。</p> <p>○各学年毎週1回、AIドリルを活用して朝学習を行っている。月の始めに学習内容を把握して、月末の週では学習した内容をテストしている。基礎的内容の定着や学習内容がわかった・できたという満足感を得られるようにした。標準学力調査の結果では昨年度と比較して、伸びが見られた。</p> <p>○数学選手権を全校統一で同じ問題で取り組んだ。成果を上げた生徒を表彰して、学習意欲の向上につながった。</p> <p>○授業規律が概ね、どのクラスもあり、落ち着いて授業に臨んでいる。</p> <p>●基礎・基本の定着には依然として課題がある。学力向上の取り組みを今後も継続し、学習内容の定着や意欲の向上につなげる。</p> <p>●生徒や保護者のアンケート結果より、授業がわかりやすいと肯定的な回答が増えているが、わかりやすい授業を今後も行うために授業力の向上に努める。</p>
	地域とともにある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事の公開</li> <li>保護者会</li> <li>学校めぐりの実施</li> <li>地域の方との連携</li> </ul>	A	<p>○各保護者会、体育祭、授業参観、合唱コンクール、ハンノキ発表会、学校めぐり等、多くの行事に保護者の方に参観をしていただき、生徒の授業の様子や行事に対する取り組みの様子を公開することができた。</p> <p>○市民防災訓練や3 days、緑化ボランティア活動では、多くのPTAや地域の方にご協力いただき生徒たちが充実した体験ができた。</p> <p>○吹奏楽部、演劇部や家庭科部が地域のお祭りに参加して活動の成果を発表することができた。</p> <p>○定期的な学校運営協議会を開催して、学校運営協議会の委員の方から学校運営について共に協議することができている。</p> <p>●地域の方から、近隣の施設の使い方や登下校の仕方について心配の声が届いている。地域の声に耳を傾け、地域の方から愛されるように指導を継続して行く。</p>

## 5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- ・「学校は生徒を 自ら学ぶ・心豊かな・たくましい生徒 に育てている」の項目では保護者の回答で肯定的な回答が78.1ポイントから83.8と5.7ポイント増えた。学校関係者評価でも同じ項目の肯定的な回答がほとんどを占めた。教職員の回答もほとんどが肯定的な回答であり、教職員自身も学校教育目標を理解し学校運営参画意識をもって、組織的に校務分掌に取り組み教育活動を充実させることができた。
- ・「学校行事が充実している」の項目では、保護者の肯定的な回答の割合が昨年度に引き続き9割を超えている。学校関係者からの評価も肯定的な回答がほとんどである。PTAや地域の方にもご協力いただき、行事が充実している。生徒も自分たちが中心となって取り組み、学校行事をと通して成長した姿が見られる。
- ・学力向上の取り組みを年間通して継続的に取り組んだ。毎週の学力向上部会を中心に朝学習、チャレンジテスト、授業研究会等、学校全体で取り組んだ。12月に行った標準学力調査の2年生の結果では昨年と比べ、数学・英語ともに伸びが見られた。1年生についても、調査全体の正答率の平均を上回る項目が見られた。一方で学校評価の「授業がよくわかる」では、1年生の否定的な回答が27ポイント、3年生は、否定的な回答が7.7ポイントから15.4ポイントになっている。生徒にとってわかりやすいと感じる授業づくりが今後も必要である。
- ・個に応じた支援では、教育相談部会や生徒指導部会を中心に必要に応じて外部の機関と連携を図りながら、同一歩調で対応ができた。配慮が必要な生徒への対応や、生徒一人ひとりの自己肯定感・自己有用感を育む指導を今後も継続して指導をする。

## 6 次年度の改善策

- (1) 基礎・基本の定着と教師のさらなる授業力の向上
  - ・朝学習や授業を中心に基礎・基本の定着の時間を設ける。
  - ・校内で教員同士での授業参観、授業研究会や指導者を招いての研修を行い、学校全体でのさらなる授業力の向上を図る。また、草加っ子の学びを支える授業の5か条の視点を活用して授業のスタンダード化を進めていく。
  - ・学力調査（全国・県）・標準学力調査の教科や質問紙の結果を分析し、教科内だけではなく、学校全体で一人ひとりの生徒の達成度の把握と教職員の指導方法の改善を図る。
  - ・学区の小学校と学力について情報交換や合同研修会を行い、学区全体で学力向上に向けて意識を高める。
- (2) 個に応じた適切な支援の充実
  - ・多くの教職員が生徒一人ひとりの様子や実態をアンテナ高くして、日頃から把握する。教育相談や生徒指導部会で協議をして学校全体で情報を共有しあいながら、それぞれの生徒にあった支援を進めていく。また、学校だけではなく、外部の機関（子育て支援センターや児童相談所等）と連携をし、組織的に生徒への支援を行う。
  - ・不登校生徒の解消と、新たな不登校生徒を出させないようにするために、教職員だけではなく、保護者、相談員、SC、SSWと連携し、組織的に支援を行う。
- (3) 自己肯定感・自己有用感の育成
  - ・授業や学校行事等、多くの場面で生徒が主体となって活躍できる場をつくる。生徒が達成感を味わい、自信をつけさせる。活動を通して、他者理解し互いを思いやる雰囲気をつくる。
  - ・学級や委員会で自分の意見が言える場面を設定して、自分の意見が言える、認められる他人の意見を認め合う機会をつくる。
- (4) 地域とともにある学校づくりの推進
  - ・今後も学校の様子を公開する機会（各行事、授業参観、保護者会、学校めぐり等）を定期的に設け、保護者に参観していただけるようにしていく。
  - ・市民防災訓練や3days、緑化ボランティア活動では、多くのPTAや地域の方にご協力いただき生徒たちが充実した体験ができています。取り組みを充実させ、生徒がより学べるようにする。
  - ・学区近隣の施設や登下校について、普段から指導を行。マナーを守り地域から愛される生徒を目指す。